

C-55 和服構成の諸要因(その4)ひとえ長着の着装による形状と縫い目の変化  
大妻女子大家政 不野内清子 ○金谷善子 筈本信子 香山委佐子

目的 和服の着用による変化を数値的に検討するため、前報にひき続き、本実験を試みた。

方法 実験着はA(交織) B(毛)の着尺地による女ものひとえ長着で、被験者9名により270時間着用した計測結果及び、モアレトポグラフィ法による形状変化と、縫い目等の変化部分の顕微鏡撮影による材料の形状変化をとらえてみた。

結果 従来、感覚的にとらえていた腰部の凸状変形、着装による前身ごろの変化等をモアレ編により面的に観察比較することができた。また、縫い目の変化については、縫製及び着用による地糸や縫い糸の損傷、疲労などが観察され、縫い方の差による比較として、手縫いの場合、縫い糸の伸び状態が、ミシン縫いにおいては、地糸の変形が多くみられた。